

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	高齢者の多発肋骨骨折に対する high flow nasal cannula oxygen therapy の有効性を検証する多施設共同前向き観察研究
研究責任者	土手 尚(当院、救急・集中治療科)、星 博勝(土浦協同病院)
研究実施体制	東京科学大学病院、総合病院 土浦協同病院、松戸市立総合医療センター 川崎医科大学附属病院、宮崎県立宮崎病院、慶應義塾大学医学部 済生会宇都宮病院、北海道大学大学院医学研究院、筑波メディカルセンター病院 島根大学医学部、船橋市立医療センター、日本医科大学千葉北総病院 在日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院、筑波大学附属病院 災害医療センター、静岡県立総合病院、帝京大学外科学講座、聖隷浜松病院 福岡大学医学部、東京女子医科大学足立医療センター 東京女子医科大学八千代医療センター、東京女子医科大学
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ~ 2030年3月31日(予定)
対象者	多発肋骨骨折(3本以上の肋骨骨折と定義)で入院した65歳以上の方。
研究の意義・目的	肋骨骨折はご高齢の患者様に対して、約10%の肺炎発症率と死亡率があると言われており、重篤な病気です。近年では、多発肋骨骨折に対して手術治療が有効であるという報告も増えてきていますが、治療の主流は今でも保存治療です。保存治療は十分な鎮痛、リハビリ、機械による呼吸サポートなどがあります。High Flow Nasal Cannula(HFNC)療法は、高流量の加温加湿酸素を供給することで、患者さんの快適性を保ちながら呼吸努力を減らし呼吸状態の改善を図ることができる、患者さんにとって負担の少ない治療です。これまでの研究では、HFNCがご高齢の患者さんの呼吸サポートとして有効であることが示されていますが、外傷患者、特に肋骨骨折の患者さんに対する研究はありません。本研究により、肋骨骨折を受傷されたご高齢の患者様の治療としてHFNCが有効かどうかを検証することが目的です。
研究の方法	以下の情報を治療の過程で収集し、HFNCの効果を検証します。 本研究で使用される情報は以下の項目です。 ・年齢、性別、BMI、既往歴、常用薬、喫煙歴、飲酒歴などの情報 ・受傷日時、受傷機転などの情報 ・来院時の意識レベル、脈拍数、血圧、呼吸数など ・採血結果、画像検査所見 ・既往歴：心肺疾患、糖尿病、慢性腎疾患、癌など ・施行した手術

	<ul style="list-style-type: none"> ・鎮痛のための処置 ・その他の治療(去痰薬、吸入、抗菌薬など) ・輸血の有無 ・上記を実施した日時 ・肺炎の発症率 ・退院時転帰 ・入院期間 ・人工呼吸器装着率 ・呼吸困難の程度 ・ICU 滞在日数 ・治療関連の有害事象 <p>カルテに記載された情報を個人が特定できないよう、匿名化した状態で取得します。本研究のために新たに患者様から取得する試料はありません。</p>
個人情報の取扱い	<p>本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。</p>
個人情報開示に係る手続き	<p>個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。</p>
資料の閲覧について	<p>ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。</p>
問い合わせ窓口	<p>聖隷浜松病院 救急・集中治療科 土手 尚 TEL:053-474-2222(代表) 救急外来 9:00~17:00 平日</p>